

事業所における自己評価結果(公表)

討議年月日:平成 31 年 3 月 19 日

公表:平成 31 年 3 月 28 日

事業所名 愛育学園すみれ

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
環境・ 体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	○		療育の内容により、室内を広く使用できるよう配置設定している	
	2	職員の配置数は適切である	○		丁寧な療育を心がけているので、基準を超える職員を配置している	
	3	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっているか。また、障がいの特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている		○	ひとりひとりの障がいの特性に配慮している	賃貸の民家なのでバリアフリー化していないが、ひとりひとりの障がいの特性に配慮し、危険などがないように注意を払っている
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	○		毎日、掃除、消毒、寝具の洗濯をしている。障害物がないよう常に職員間で声かけしている	
業務改善	5	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	○		随時、職員間で振り返りをしている	
	6	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	○		連絡帳や送迎時の話の中で、保護者の意向などを把握している	
	7	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している				事業所として今回第一回の自己評価を行った。今後も年に一回公表していく
	8	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている		○		今後、行う予定である
	9	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	○		毎月、職員研修をしている	職員研修は毎月あるが、外部の研修を今より多く取り入れていく
適切な 支援の 提供	10	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	○		子ども、保護者とのやり取りを大切にしている	
	11	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	○		アセスメントシートを活用している	今後、標準化されたアセスメントツールを使用していく
	12	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	○		必要な項目を適切に選択し、ひとりひとりに合った目標設定をして、わかりやすい支援内容を示している	児童発達支援ガイドラインの内容の周知をしっかりと行う
	13	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	○		職員間で共通理解をしている	
	14	活動プログラムの立案をチームで行っている	○		職員全体で行っている	
	15	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	○		常に子どもが楽しめるものを取り入れている	日々の活動の中で、療育の目的を保護者に伝えるようにする
	16	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成している	○		日常、どのような支援が必要か、細やかな観察を行っている。	
	17	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	○		担当がその日によって変わるので、必ず伝達をしている	漏れのないよう、細かい内容は掲示板を活用する
	18	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	○		職員間の共有を常に図っている	
	19	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	○		その日に出動している職員で記録をとり、職員全体でも把握することを徹底している	
	20	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	○		入園時にモニタリングを行い、半年を目安に必要に応じて見直しをしている	
21	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	○		主に児童管理責任者が参画している		
22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	○		必要に応じて、他の関係機関と連携をとっている。		
23	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている				該当者なし	

関係機関や保護者との連携	24	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている				該当者なし
	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	○		保護者の情報提供の他、必要に応じて保育所や幼稚園と直接、相互理解を図っている	子どもが通って幼稚園や保育園などに訪問できる機会をもっていく
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	○		毎年、特別支援学校のイベントに参加している	限られた学校だけではなく、いろいろな学校に参加できる機会をもっていく
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	○		年に2回、専門機関と連携し、助言を受けている	引き続き連携し、職員全体のスキルアップを図っていく
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある		○		未就学の子どもは、当園での小集団の生活に安心して通園し、生活習慣を身に付けることを重要視し、保育所や幼稚園に通園している子どもはゆったりと過ごせることを心がけているので、特別に機会を持つことは今まではなかったが今後検討していく
	29	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども子育て会議等へ積極的に参加している		○		参加はしているが、毎回ではないので今後は積極的に参加していく
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	○		連絡帳にて、共通理解をしている他、送迎時に状況を伝え合うことを重要視している	
保護者への説明責任等	31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレントトレーニング等)の支援を行っている	○			研修を取り入れて支援の向上を図っていく
	32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	○		わかりやすい説明を心がけている	入園時に説明はしているが、把握できていない点などもあるので、落ち着いた頃に必要に応じて個々に再度説明をしていく
	33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	○		わかりやすい支援内容を心がけている。	
	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	○		いつでも相談できる体制をつくっている	
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	○		バザーや通信作成、保護者会など、保護者の要望に応じて、活動を支援している	
	36	子どもや保護者からの相談や申し入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申し入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	○		いつでも相談できる体制を整えている	
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	○		行事予定は毎月の月案で提示し、年2回、情報などの会報を発行する他、必要に応じてお知らせを掲示している	長期欠席する場合は、必要に応じて電話などでお知らせをする
	38	個人情報の取扱いに十分注意している	○		年度初めの保護者会にて説明している他、保護者、職員に同意書を得ている。書類など必要なくなったものは必ずシュレッダーしている	個人情報の取り扱いがある場合は、その都度十分注意するよう伝えていく
	39	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	○		必要に応じて行っている	
	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	○		年2回、バザーを開催し、ポスターを事業所前に掲示したり、区報などに掲載している	
非常時等の対応	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	○		月1回、避難訓練をしている。感染症の流行についてはお知らせを掲示している	マニュアルの見直しをし、職員や保護者に周知する
	42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	○		月1回、避難訓練をしている	
	43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	○		入園時の聞き取りにて保護者から状況を確認している他、服薬の取り扱い時は随時、連絡帳に添付し記入できるようにしている	服薬の漏れがないよう、保護者との連絡確認を口頭と連絡帳にて行い、給食担当に伝え職員で把握する
	44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	○		入園時、食物に関するアンケート調査を保護者に記入してもらい、給食担当と職員が常に確認できるようにしている	変更があるときは、保護者にその都度報告してもらい周知する
	45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	○		小さなことでも、職員全体で確認し共有している	ヒヤリハット事例集を職員会議にて読み合わせをして、職員全体で共有する
	46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	○		虐待防止の研修内容など、職員会議にて共有している	今後も適切に対応していく
	47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している				現時点で身体拘束をする必要性はないが、身体拘束について職員間で話し合い、組織的に決定していく

○この「事業所における自己評価結果(公表)」は、事業所全体で行った自己評価です。